

医療機関アンケート集計結果等について【西濃圏域版】

平成30年8月に実施した「医療機関アンケート」の回答があった医療機関を一覧にしています。

No	医療機関名	圏域	所在地	2017年7月1日時点機能別病床数 ① 【H29年度病床機能報告結果】						将来（2025年）の病床機能の予定 ②						②-①						備考
				合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他（休棟等）	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他（休棟・廃止等）	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他（休棟等）	
1	大垣市民病院	西濃	大垣市	857	398	399			60	857	290	507			60	0	▲ 108	108	0	0	0	
2	揖斐厚生病院	西濃	揖斐川町	281	15	159	55	52		281	15	159	55	52		0	0	0	0	0	0	
3	西美濃厚生病院	西濃	養老町	315		187	63	65		315		187	63	65		0	0	0	0	0	0	
4	大垣徳洲会病院	西濃	大垣市	283		181	51	51		283		181	51	51		0	0	0	0	0	0	
5	名和病院	西濃	大垣市	106			33	73		106			33	73		0	0	0	0	0	0	
6	海津市医師会病院	西濃	海津市	100		49	51			100		49	51			0	0	0	0	0	0	
7	新生病院	西濃	池田町	96		51		45		96			51	45		0	0	▲ 51	51	0	0	
8	大垣中央病院	西濃	大垣市	65			45	20		65			45	20		0	0	0	0	0	0	
9	馬淵病院	西濃	大垣市	52				52		52				52		0	0	0	0	0	0	
10	藤井病院	西濃	関ヶ原町	45				45		45				45		0	0	0	0	0	0	②について、未記入のため、H29年度病床機能報告結果（6年後の機能）を用いる
11	国保関ヶ原診療所	西濃	関ヶ原町	19				19		19				19		0	0	0	0	0	0	
12	もりレディースクラブクリニック	西濃	大垣市	19		19				19		19				0	0	0	0	0	0	②について、未記入のため、H29年度病床機能報告結果（6年後の機能）を用いる
13	竹田整形外科	西濃	神戸町	19			19							19	▲ 19	0	0	▲ 19	0	19		②について、未記入のため、H29年度病床機能報告結果（6年後の機能）を用いる
14	いびレディースクリニック	西濃	揖斐川町	15		15				15		15			0	0	0	0	0	0		

No	医療機関名	圏域	所在地	2017年7月1日時点機能別病床数 ① 【H29年度病床機能報告結果】					将来（2025年）の病床機能の予定 ②					②-①					備考			
				合計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	その他 （休棟 等）	合計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	その他 （休棟・ 廃止等）	合計	高度 急性期	急性期		回復期	慢性期	その他 （休棟 等）
15	小森眼科	西濃	大野町	10		10				10		10			0	0	0	0	0	0		
16	黒川胃腸科外科クリニック	西濃	神戸町	5		5				5		5			0	0	0	0	0	0		
17	稲川耳鼻咽喉科	西濃	大垣市	5				5	5				5	0	0	0	0	0	0	0	②について、未記入のため、 H29年度病床機能報告結果 （6年後の機能）を用いる	
参考資料3-1【小計】				2,292	413	1,075	317	422	65	2,273	305	1,132	349	422	84	▲ 19	▲ 108	57	32	0	19	※精査中

医療提供体制の構築に向けて、各医療機関が地域における自らの立ち位置を把握し、地域の実情に加え、自施設の現状を把握することが重要であるため、お聞きしたものです。

自施設の課題として、各医療機関が地域において今後担うべき役割を検討するにあたり、地域及び自施設の現状を踏まえ、自施設の持つ課題を整理するために、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	自施設の現状	自施設の課題
1	大垣市民病院	西濃	<p>「患者中心の医療・良質な医療の提供」を理念とし、西濃医療圏域の中核基幹病院として、高度で専門的な医療施設や医師・歯科医師臨床研修病院の環境を整備している。西濃医療圏内唯一の救命救急センターでは、24時間体制で一次から三次までの救急医療を実施するとともに、地域がん診療連携拠点病院をはじめ、地域災害拠点病院、岐阜県地域周産期母子医療センター、小児救急医療拠点病院等の指定・認定を受け、質の高い医療を提供している。また、地域医療支援病院として、在宅医療を含む医療・福祉及び介護の連携体制(地域包括ケアシステム)の実現のために、地域の医療機関との連携と機能分担を促進する役割が求められている。</p> <p>急性期病院として、これまでに外来患者数(現在2,100~2,200人/日)の削減、入院患者の平均在院日数(現在約11.8日)の短縮に取り組んできた。病床数は現在903床であるが、地域医療構想が成就すれば、高度急性期と急性期で800床ぐらまでは削減できるであろう。病床機能の転換、診療科の見直し、他の医療機関との再編・統合は考えていない。</p>	<p>医師数は、現在常勤約200名で過不足はないが、一部の診療科において医療の縮小を余儀なくされている(産婦人科、麻酔科、小児科など)。これらの科では、初期研修医から募って専門医を育てる方針である。看護師(現在約800名)を含めco-medicalは充足しているが、医療クラークなどの事務員はまだ50%程度の充足率である。医師の過重労働の観点からも、特に医療クラークの補填は喫緊の課題である。また、放射線治療を行っているがん患者が年間約800人いるのに対し、放射線治療機が1台のみであり、前立腺がんは約1年、乳がんは半年待ちの状態である。早期に2台体制にする必要がある。患者サービスについては、駐車場の問題(立体駐車場がないため患者が遠い距離を歩く必要がある)やバスターミナルがないなど、施設面でもこの規模の病院としては劣っている。今後の改築については、老朽化により将来的に建て替えが必要な棟もあり、都市計画も含めた病院環境の整備が必須である。高齢化社会において、患者サービスを第一に考えた病院の在り方を抜本的に考えるべき時期にある。</p>
2	揖斐厚生病院	西濃	<p>当院は、西濃圏域北部地域唯一の総合診療機能を有する病院で、揖斐郡を中心に、神戸町、本巣市北部を含めた地域からの利用者が多くを占めています。揖斐郡3町の人口は、2005年をピークに減少しておりますが、65歳以上の高齢者は2020年まで増加し、その後は減少に転じる見込みです。</p> <p>当院では、3次医療機関との連携を前提に、急性期から回復期・慢性期および在宅医療等に積極的に取組み、切れ目のない医療を提供し、各医療機関等と連携することで地域の中核病院としての役割を担っています。</p> <p>また、在宅後方支援病院として、地域の医療機関との連携を強化し、在宅・介護福祉施設等からの急性増悪患者の受け入れや、地元行政等と協力し、救急・災害・へき地・予防・在宅医療等に積極的に取り組んでいます。</p> <p>※詳細は別紙2025プランに記載</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年3月に県より、「本館・外来棟」が震度6強以上の地震で倒壊や崩壊の危険性が高い構築物として公表されました。耐震化を含めた総合的な病院の在り方について、医療介護政策を踏まえ、関係行政等と協議し計画を策定する必要があります。 ・西濃医療圏北部は高齢化率が高く、高齢者の終末期をどこで誰が看取するのかを地域で考える必要があり、地域にとって最良な医療・介護サービス等を提供するうえで適正な病床機能のあり方、病床数について検討する必要があります。 ・常勤医師一人で担う診療科が多く、医師の高齢化も進んでいることから、医師の負担軽減対策と増員並びに宿日直可能な若手医師の確保を図る必要があります。特に平成30年度には内科医師の退職が続くことから、常勤医師の確保が急務です。 ・初期臨床研修医・専攻医の確保のため、基幹病院との連携強化が必要となります。 <p>※詳細は別紙2025プランに記載</p>
3	西美濃厚生病院	西濃	<p>当院は西濃圏域の西南地域の医療を担っており、養老町を中心に、大垣市西南部・海津市北部から多くの患者の受け入れを行っています。</p> <p>養老町、大垣市、海津市における将来人口推計においては、西濃圏域全体と同じ傾向にあります。生産年齢人口が減少する中、75歳以上の後期高齢者は2030年(平成42年)頃まで増加し、その後、減少に転じる見込みです。</p> <p>当院の病床機能としては、3次医療機関(基幹病院)との連携を前提に、必要な急性期機能を有した上で、回復期、慢性期及び在宅医療等に積極的に取り組み、各医療機関及び介護施設等、関係機関と連携することで西南地域において、切れ目のない医療を提供し、各医療機関等と連携することで地域の中核病院としての役割を担っています。</p> <p>また、在宅後方支援病院として、在宅医療を担う地域の診療所や介護福祉施設等からの緊急時の患者の受け入れを積極的に行っています。</p> <p>(詳細は別紙の「公的医療機関等2025プラン」を参照)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の一部に耐震化が必要とされる建物があり、耐震化を含めた総合的な病院の在り方について、今後の医療介護政策の方向性を踏まえ、関係行政等と協議し計画を策定する必要があります。 ・今後の人口動態、受療動向を踏まえ、地域にとって最良な医療・介護サービス等を提供する上で、経営収支面も含め適正な病床機能のあり方及び病床数について引き続き検討する必要があります。 ・常勤医師20名(歯科医師1名含む)が在籍し、一部診療科においては非常勤医師の対応となっています。また、常勤医師の高齢化が進んでいることから、医師の増員と後任医師の確保が急務となっています。 ・新専門医制度により、専攻医の確保は困難と想定され、基幹施設との更なる連携強化が必要です。 ・西濃圏域の南部は低湿地帯が多く、南海トラフ地震発生時には、液状化現象や浸水被害も想定されています。そのため、傷病者や地域の医療機関等の患者の受け入れに必要な病床確保、災害医療チーム派遣などの連携強化が必要です。 <p>(詳細は別紙の「公的医療機関等2025プラン」を参照)</p>
4	大垣徳洲会病院	西濃	<p>医師の勤務状況により、充実している診療科と充実していない診療科がある。</p>	<p>常勤医師の確保。</p>

病床転換予定の有無、転換する病床機能、時期等をお聞きしたものです。

前述の「自施設の現状」「自施設の課題」、「2025年の4機能ごとの病床数」を踏まえ、担うべき役割をお聞きしたものです。

2025年に向けた診療科の見直しについて、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	病床機能の転換予定	2025年に向けて担うべき役割	診療科の見直し
1	大垣市民病院	西濃		西濃医療圏域の高度及び急性期医療、特に「救命救急」、「災害拠点」、「がん拠点」、「周産期」、「小児救急」等の中心的役割を担う。	
2	揖斐厚生病院	西濃		限られた医療資源のなかで「地域完結型」の医療を支える役割を担う必要があります。圏域北部の医療需要に応えるため、急性期から回復期・慢性期医療までの中核的役割を担います。 <ul style="list-style-type: none"> ・4疾病の取り組み ・救急医療の取り組み ・災害時の医療提供体制の維持・確保 ・へき地中核病院としての役割 ・地域医療機関との連携 ・地域包括ケアシステム構築に向けて果たすべき役割 ・予防医療の促進 ・高齢化社会への対応 ・診療体制の維持 ※詳細は別紙2025プランに記載	
3	西美濃厚生病院	西濃		限られた医療資源の中で「地域完結型」の医療を支える役割を担う必要があります。西南地域の医療需要に応えるため、急性期から回復期・慢性期医療までの中核的役割(中核病院)を担います。 <ul style="list-style-type: none"> ・4疾病の取り組み ・救急医療の取り組み ・災害時の医療提供体制 ・へき地中核病院としての役割 ・地域医療機関等との連携 ・地域包括ケアシステム構築に向けて果たすべき役割 ・予防医療の促進 ・高齢化社会への対応 ・診療体制の維持 (詳細は別紙の「公的医療機関等2025プラン」を参照)	
4	大垣徳洲会病院	西濃		急性期から慢性期、さらに在宅へとこの地域の方々が必要とされる切れ目のない医療、看護の提供を目指す。	

医療提供体制の構築に向けて、各医療機関が地域における自らの立ち位置を把握し、地域の実情に加え、自施設の現状を把握することが重要であるため、お聞きしたものです。

自施設の課題として、各医療機関が地域において今後担うべき役割を検討するにあたり、地域及び自施設の現状を踏まえ、自施設の持つ課題を整理するために、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	自施設の現状	自施設の課題
5	名和病院	西濃	「信頼される病院を目指して」を基本理念として、明るい医療・安心してかかれる医療・親身になって尽くす医療・負担のかからない医療を四本柱としております。	患者に寄り添う医療のためには看護師・ヘルパーの確保が急務であるが、不足している現状である。又建物、設備等老朽化しており改修等が必要です。
6	海津市医師会病院	西濃	急性期病床49床と、地域包括ケア病床51床の計100床での運用。海津地域の拠点として、医療提供の中心的な役割を担っている。	人口減少が著しい中、必要な医療を提供できる体制の確保、適正な病床数の確保。 医師・看護職員・看護補助等の人材確保。
7	新生病院	西濃	1. 当院は、地元池田町および周辺の揖斐川町、大野町、神戸町の住民から、「必要とされる病院」を目指している。 2. 二次救急病院として、地元高齢者の急性増悪患者については、積極的に受け入れできる体制としている。	1. 常勤医の減少と高齢化が進み、常勤医の増員確保が急務となっている。 2. 地元高齢者の急性増悪患者の緊急入院の受入体制を整備しつつも、手術が必要な患者については大垣市民病院へ紹介していく。その後の術後の患者については、リハビリの提供強化により回復期機能を発揮できるよう機能転換を図っていく方針である。
8	大垣中央病院	西濃	・理念 私たちは、地域医療を重視します。…… ・基本方針 病院と地域に適する医療を目指します。…… ・自施設の持つ設備・人材 透析センター 34床 臨床工学技士 4名 リハビリセンター 理学療法士17名 作業療法士2名 セラピスト3名	・急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる医療機関の整備に向けて当院の役割の再検討が必要 ・地域に密着した医療体制に向けて在宅診療への取り組み
9	馬淵病院	西濃		
10	藤井病院	西濃	特になし	特になし
11	国保関ヶ原診療所	西濃	本町には、国保関ヶ原診療所のほか、民間の病院が1か所、診療所が2か所、歯科診療所が4か所あり、その中で当診療所は有床診療所として地域医療の中核を担っています。また、地域包括ケアシステムの実現に向け、在宅医療を推進するため、保健・福祉・医療の連携強化が必要であり、本町の医療機関として重要な役割を担っています。	医療サービスの向上、経営の安定化が課題
12	もりレディースクラブクリニック	西濃		
13	竹田整形外科	西濃		
14	いびレディースクリニック	西濃		

病床転換予定の有無、転換する病床機能、時期等をお聞きしたものです。

前述の「自施設の現状」「自施設の課題」、「2025年の4機能ごとの病床数」を踏まえ、担うべき役割をお聞きしたものです。

2025年に向けた診療科の見直しについて、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	病床機能の転換予定	2025年に向けて担うべき役割	診療科の見直し
5	名和病院	西濃		急性期医療後の回復期・慢性期の病院としての役割に特化する。	【新設】 歯科 【廃止】 眼科 【理由】 眼科は退職する先生の補充が出来ず閉診します。又歯科におきましては新設を検討中です。
6	海津市医師会病院	西濃		これまで同様、二次救急医療、急性期、回復期を担い、開業医、周辺医療機関と連携し地域医療を守ることが役割である。	
7	新生病院	西濃	H.31年度中に老朽化した病院施設を同一敷地内での建替えに着手する計画であり、新築施設においては、一般病棟の急性期機能から回復期機能への転換を予定している。	1)一般病棟(51床)については、現状の急性期病床から一部(30床)を「地域包括ケア病床」に転換して、病棟としては回復期機能病床に機能変更する計画である。 2)2病棟(療養病棟)については慢性期機能を提供していく予定であるが、上記の一般病棟の一部を地域包括ケア病床とすることで、療養病棟のニーズが減少し、在宅扱いの「介護医療院」のニーズが高まれば、「介護医療院」へ転換する可能性がある。	【新設】 健診センター(人間ドック) 【理由】 1. 当院の主要な患者層は高齢者であるが、当院周辺には大規模工場もあり産業医契約先が20社以上ある。働く世代への予防医療の提供も重要施策と考え、「健診センター」の設置を新築施設内に計画する。
8	大垣中央病院	西濃			
9	馬淵病院	西濃			
10	藤井病院	西濃			
11	国保関ヶ原診療所	西濃		2025年に向けて担うべき役割は継続して地域医療の中核を担い、地域包括ケアシステムの実現させ、在宅医療を推進するとともに、より一層保健・福祉・医療の連携強化を図っていく。	
12	もりレディースクラブクリニック	西濃			
13	竹田整形外科	西濃			
14	いびレディースクリニック	西濃			

医療提供体制の構築に向けて、各医療機関が地域における自らの立ち位置を把握し、地域の実情に加え、自施設の現状を把握することが重要であるため、お聞きしたものです。

自施設の課題として、各医療機関が地域において今後担うべき役割を検討するにあたり、地域及び自施設の現状を踏まえ、自施設の持つ課題を整理するために、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	自施設の現状	自施設の課題
15	小森眼科	西濃	本年4月より医師2名の常勤体制を始めました。	<p>今まで症例により当院にて対処出来ない案件については、遠隔地(岐阜市、名古屋市)まで紹介した患者様もありますが、今後は当院にて出来る限り対応出来る症例は加療していく方針である。</p> <p>最近が高齢化が進み遠隔地まで行くのは、無理だと言われる患者様が多くなってきました。</p>
16	黒川胃腸科外科クリニック	西濃	地域に密着し、地域の方々が安心して生活できる環境を提供できる医療機関でありたいと考えております。有床診療所を維持するにあたり、人件費、設備修繕費用が1番の課題であり、収支が成り立たなくなってきている。	<p>地域包括ケアで、ターミナル期の介護力のない家庭に対し、最後の砦として入院病床を残したいと思っはいるが、保険点数は低く、人件費、設備整備修繕費の経費が重く、今後維持できるか不安が大きい、また、看護師を含め人材の確保が難しい、また、保険点数が低く、新しい設備等投資することが難しい。外来、在宅介護サービスの収益で何とか補填しているがどこまでできるのかが不安である。最悪の場合は、入院部門を切り捨てなければならなくなる可能性もあります。</p>
17	稲川耳鼻咽喉科	西濃		

病床転換予定の有無、転換する病床機能、時期等をお聞きしたものです。

前述の「自施設の現状」「自施設の課題」、「2025年の4機能ごとの病床数」を踏まえ、担うべき役割をお聞きしたものです。

2025年に向けた診療科の見直しについて、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	病床機能の転換予定	2025年に向けて担うべき役割	診療科の見直し
15	小森眼科	西濃	眼科手術は最近日帰りを希望される患者様も多くなり、病床の利回りは減少している。最近、遠隔地又は高齢により入院希望もあります。今後は高齢者に対して考えていかなければならないと思います。	最近高齢者の白内障手術も多くなり病床利用を希望される患者様に対してそれに対応する病床数を考えている。	
16	黒川胃腸科外科クリニック	西濃		在宅のターミナル期の方々が在宅で家族で看取りができない方の受け皿としての存在、経管栄養24時間の医療的ケアが見守りが必要な患者様の受け皿	
17	稲川耳鼻咽喉科	西濃			